

緑の地球ネットワーク
2016 8月 黄土高原スタディツアー
体験記

2016.8.26 ~ 9.1



認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク

〒552-0012 大阪市港区市岡 1-5-24-303

TEL.06-6576-6181 FAX.06-6576-6182

e-mail : gentree @ s4.dion.ne.jp URL <http://gen-tree.org>

【日程】

8月26日(金)	朝、出発。昼、北京着。バスで大同市 ^{だいどう れいきゅう} 霊丘県へ。	明珠国際商務酒店泊
27日(土)	上寨鎮 ^{じょうさいちん} の南天門自然植物園へ。終日植樹、見学。	〃
28日(日)	渾源県 ^{こんげん} 懸空寺 ^{けんくうじ} 参観。呉城村 ^{ごじょう} のアンズ果樹園見学。大同市へ	雁北賓館泊 ^{がんほく}
29日(月)	大同県 ^{おとうせん} 王千戸村の緑の地球環境センターで作業。 聚楽郷 ^{じゅらく} 采涼山 ^{さいりょうざん} 地球環境林、カササギの森見学。	〃
30日(火)	雲崗 ^{うんこう} の石窟、万人坑 ^{まんにんこう} 、口泉植物園見学。買い物。夜行列車で北京へ。	車中泊
31日(水)	早朝、北京着。故宮参観。GEN25周年記念イベント。 「中日友好使者」称号授与式。	華育賓館泊 ^{かいく}
9月1日(木)	雍和宮 ^{ようわきゆう} 参観。北京空港へ。帰国	

(読みがなは原則として日本語の音読みをあてました。)

【参加者名簿】

M. A	東京都	C. A	東京都
S. A	東京都	K. I	福岡県
T. I	大阪府	M. I	千葉県
M. E	東京都	K. O	奈良県
K. K	京都府	A. K	東京都
Y. K	神奈川県	K. K	東京都
M. K	京都府	K. S	東京都
S. S	東京都	S. S	千葉県
高見 邦雄	兵庫県	M. T	東京都
S. T	東京都	M. T	埼玉県
K. N	京都府	Y. N	東京都
東川 貴子	兵庫県	K. B	東京都
K. H	東京都	H. H	東京都
前中 久行	大阪府	T. M	大阪府
T. Y	大阪府	A. Y	静岡県
J. Y	大阪府		

【中国側スタッフ】

ぶしゅんちん
武春珍 (緑色地球ネットワーク大同事務所長)
りかいせい
李海静 (〃 スタッフ)
おう へい
王 萍 (〃 通訳)
さいきょううん
柴京雲 (大同市総工会副主席)

ぎせいがく
魏生学 (緑色地球ネットワーク大同事務所副所長)
かくほせい
郭保青 (〃 運転手)
りこうとう
李向東 (南天門自然植物園責任者)
とうぞきん
唐素勤 (通 訳)

● 8月26日（金）

【K.K記】

越後妻有（十日市市）で「大地の芸術祭」の仕事をしている娘のところから帰ったのが24日で、25日はGEN事務所で会計の処理をしていたから旅行準備が直前になってしまった。寝不足のまま、5時半樟葉駅前発のバスに乗って、集合時間の7時に少し遅れて関空に着いた。

CAで北京に着くと通訳の唐さんが迎えてくれた。

関空からの10人は羽田からの17人を待って貸切バスで大同の霊丘に向かう。

バスの中でパンとサラダとおやつが入った昼食が配られる。中に300mlのジュースが入っていて100ml当たり224kJと表示されている。中国に来るたびに新しい発見があるが、食品表示にも国際単位系が使われているのを発見。明日からが楽しみである。

朝食はコンビニで買ったパンで済ませていたところに、機内食と昼食ということになり、カロリーオーバー（正しくはジュールオーバー？）になりそうだ。

新発見といえば、北京から乗ったバスの乗降口が、前とまん中の2か所あるのに、途中で気がついた。日本の観光バスでは見かけないものだ。

霊丘への道も長いトンネルができていて、渋滞はあったが早く着いたように思う。ほとんど寝ていたので影響はあまりなかったが、トンネルで景色が見られなくなったのは残念な気がする。

「発展」は避けられないのだろうが、スローライフ的な良さも残ってほしいと思うところである。質量・エネルギー保存則とエントロピー増大則は、物理的制約を示している（と思う）が、最近のマイナス金利などは、経済のしくみの限界が表れているように思える。新たな人びとの関係がどのようにになっていくのか興味深いところである。

【S.S記】

約20年ぶりに、中国の土を踏んだ。

5歳だった私は家族旅行で親に連れられ、自分がどこにいるのかもよく分かっていないまま中国にいた。しかし今日は、自らの意志でここにいる。少しの進歩と見てよいだろうか。

とはいえ今日は、ほとんど移動しただけで終わってしまった。

眠い目をこすりつつ始発から2本目の電車で羽田へ向かい、北京へ。そしてバスで約5時間かけて大同市に。いまはそのホテルでこれを書いている。洗面所のドアノブが外れかけていることを除けば、おおむね快適な部屋である。

本日唯一の中国らしいイベントであった夕食について記しておく。

中央がくるくる回る丸いテーブルに座り、バイキング形式で料理を取っていった。麺類が多く、味付けは辛いというのが全体の印象である。ひよんなメニューが辛くて、意外なものが無味に近かったり甘かったりしたので、純粹に食べる以外にも「これは何だ？」と考える楽しみがあった。中国人である齊さんいわく「これは辛い」とのことだったので、さすがだと思った。

玄米茶がおかわり自由で出たところがありがたかった。ここ中国において、安全な水分は貴重である。

明日はいよいよ植物園にて植樹活動が始まる。できることは多くはないだろうが、やれるだけやってきたいと思う。

【T.M記】

3回目の大同。（2010年夏、2013年春）

朝7時関空集合ということなので、自宅（大阪市港区）を5時前に出て、始発の地下鉄に乗る。弁天町で環状線に乗り換え、天王寺駅で阪和線に、また、乗り換える。ひとつ遅れると時間に間に合わない。以前の朝9時集合に比べ、最初から緊張の連続となった。

飛行機は8時半出発が9時20分出発となり、かなり遅れた。北京到着は12時頃だったと思うが、途中で予想していなかった機内食も出て、朝ごはんなしの身には助かった。

東京からのJAL組、ANA組とも合流し、午後2時頃、空港を出発し、高速道路で大同・霊丘県へ向かった。となりにS先生が座られ、要所要所で森のお話をいただいた。

午後6時前に、涇源県を通っているとコンクリートで造られたのではないかと思われる魚鱗坑や石を拾い集めて造ったと思われる魚鱗坑などがあり、ふーん、へーであったが、どこも緑の多いのには感心した。「退耕還林」や「封山育林」の政策が浸透していることがうかがえた。

夕方5時頃、易県のあたりの長さ1800 mくらいのトンネルを通過中、前のトラックがハザードランプが点灯し、渋滞となった。入口から、1500 m付近で事故があり、一車線しか通れず、渋滞が起きたのだ。我さきに行こうとする車の警笛がひびくたびにあまりいい気はしなかった。旅の始まりはこんなものかな。

明珠のホテルには7時前についたが、車を降りるとひんやりしていた。大阪の暑さに比べると避暑に来たようなものだ。

さて、話が違って管子は、1年の計画のときは穀物を植えよ。10年の計画のときは樹を植えよ、一生の計画のときは人を育てよ、と言われたという。

広い黄土高原で緑が広がっていくのはうれしいことである。世代をつないでずっと続いてほしいものでもある。明日から人の心に樹を植えられるよう、頑張ろう！！

【K.H記】

8月26日から9月1日まで、世話人（理事）をするNPO法人「緑の地球ネットワーク」の、山西省大同市での25周年記念黄土高原植樹と北京での記念行事で中国に。久しぶりの中国定点観測。前回20周年記念から5年振り。北京から西へ3百キロ、黄土高原のど真ん中、先の戦争で日本軍が真っ先に攻め込んだ炭鉱と発電の街。トウモロコシと大豆、牛と羊、山羊の貧しい農村、戦後直ぐの故郷秋田にも似たディープチャイナは変わったのか？ 変わらないのか？ どう変わったのか？ 興味津々。かつて中国の平均耕地面積は0.6ヘクタールと日本の農家の耕地面積より狭かったが、最近は離農と都市への人口集中により、大規模化、法人化、機械化が進むという。他方、都市化、工業化も進み、沿海部、都市部から賃金も上昇、世界の工場としての経済の構造転換を迫られ、経済は踊り場にある。そんな中国を定点観測出来るのは嬉しい。

北京着、珍しく青空。遠くの山波まで良く見える。大気汚染はどこに行ったのか？ 経済不振で生産活動が低調だからか？ ウォシュレット付最新型JAL機で3時間の空の旅。北京東郊の国際空港から学生8人を含め30人ほどが、大型バスで高速道路を都心部へ向かう。以前に増して渋滞が酷いが、分厚いポプラ並木の緑が目癒す。水不足で、遙か揚子江の水を運河で分水までする北京の緑は貴重だ。6環までである環状高速道路を2環から6環まで、順繰りに南西に走る。都心に近づくにつれビルが増え、高さを増し、渋滞が酷くなる。大都会北京を南西に走り、都心部を抜け、環状高速に付けられた数字が増えるにつれ高層オフィスビルが減り、高層マンションが増え、その高さも低くなるにつれ渋滞も徐々に緩和、ようやく車本来の能力をフルに発揮、高速で走り始める。

つれて平地が減り、山がちになる。思いの外、山の緑も濃い。黄色い穂をつけ、高く伸びた緑のトウモロコシ畑の他に苗木畑も多い。経済成長著しく、豊かになると緑化にも金が回るといふことか？ 聞けば苗木も生産過剰で、値段が下がっているという。鉄にしる、石炭にしる儲かりそうだとすると、一斉に設備投資、過剰生産に陥る。経済成長の多寡で党の地方幹部の評価が決まるから、過当競争だと分かっても引けない。苗木は世界中に輸出するという訳に行かないが、鉄は世界中にダンピング輸出、世界の市場を混乱に陥れる。かつての日本がそうだった様に、原料を輸入、安い労働力を利用し加工、世界中にダンピング輸出、鉄鉱石や石炭、石油など世界中の資源価格も乱高下、世界経済を混乱させる。

今回は八達嶺の万里の長城も、北京の水瓶官庁ダムも通らない。高速道路が新しく開通、前回より南下して南の方から大同に向かう。前回5年前と景色が違う。それにしても緑が濃い。等高線のように段を切って植えてあるのが解る。穴を掘って、周りに白い石を魚の鱗のように積み上げた「魚鱗坑」も見える。明らかに植樹の成果だ。背丈は並べて余り高くない。植えて年数が経っていないのか？ 降水量が少ないから伸びないのか？

緑が濃くなれば土地の保水力も増し、保水力が増せば降水量も増え、木も成長する。かつて文明の発展・人口増と共に緑を失ったのと逆の好循環に、世界四大文明発祥地の一つだったこの地は、たち戻ることが出来るのか？ 途中の太行山脈の長いトンネルの中での、四重衝突事故の渋滞もあり、予定より30分ほど遅れ、7時に大同市の南端、靈丘県のホテルに着く。昼の北京は26度だったが、バスを降りると高原の心地よい涼風が頬を撫でる。地料理を肴に、2.5度の薄い地ビールと、その地ビールを水代わりに交互に口に含む42度の白酒（バイチュー）で頬も赤に染まり、黄土高原も紅く暮れゆく。

● 8月27日（土）

【M.E記】

南天門自然植物園に行った。“植物園”という言葉からイメージしていたものとはかなり違って、一言で表すなら“山”であった。道なき道のようなところも歩きながら碑のところまで上った。下のほうの緑に雲の影がのっていたのが印象的だった。

1999年の写真の前で高見さんが「好きだから、頑張ってる」と話していて、昨日の夕食時に他の学生から就職について聞かれ、同じように好きかどうかが大切だと話したのを思い出した。年々、何かをやりたいと思っても「好きだからという気持ちだけじゃどうにもならない」と言われたり、自分でそう思うことも多かった。しかし20年。これだけ様変わりさせる力の源が“好き”という気持ちであるということが非常に嬉しかった。

前回の北京留学では体調不良で食事があまり楽しめなかったが、今回は慣れもあってか、食の素晴らしさを楽しむことができています。朝晩ともにおかずの数が多いので、様々なものを食べられて嬉しい。中国独特の味は日本では中国人向けの中華料理店でしか味わえないので、今回はたくさん食べて帰りたいと思う。

昨日、さっそくルームキーが使えなくなった。その時はとっさにどうしてよいかわからなくなって堀井さんにフロントで頼んでもらったが、よく考えれば「這個卡不能開門」などとわからないなりに言ってみればよかったと思った。1か月留学していたにも関わらずそれ以降ほとんど中国語を使っていない。というか、授業以外では、郵電大の先生と連絡する時しか使っていなかったし、まして口に出す会話は全くしていなかったの、すっかりなまってしまっている。情けない……。

できないことがある自分にはがっかりする部分はあるが、来てまだ2日だが面白いこともたくさんあって、来て良かったと強く感じている。以前中国に来た時、中国人ってみな親切だなと感じたものだが、今回もそう思えてよかった。個々人として、でだけでなく、国同士としても中国と今後どうつき合っていくのか、ということは私にとって重大な関心事である。今回の滞在を通じてまたこうしたことに対する考えを深めていきたい。

突然シャワー中に水しか出なくなった。体を洗おうと、石けんをつけたところだったので水を全身にあびることになった。8月とはいえ大変寒かった。

【M.T記】

本日からいよいよ植林の開始である。腹が減っては戦ができぬということでまずは朝食をとる。私の趣味の一つは釣りであるが、食堂の水槽で日本で釣っているブラックバスが泳いでいた。ブラックバスも日本にはもともと食用として入ってきたことを思い出した。中国では食用として流通しているのだろう。残念ながら朝食にそれらしい魚は見当たらなかった。

その後植林の地である南天門自然植物園へ向かった。断崖絶壁に囲まれた谷を抜ける。ふと山の中腹に電柱などの人工物があるのが目に入る。いったいどうやってこの絶壁を運び上げたのだろうと単純な疑問が頭に浮かぶ。そんなことを考えているとバスは目的地へと到着した。

その場所から向かうのははるか遠くに見える山（頂）だという。いったいどれだけの距離があるのだろうと少し不安になりながら植林場所まで進んでいった。道中高見先生の植物の解説などを聞きながら進むことができ、退屈せず過ごすことができた。大麻草を見たのは初めてで、日本で禁止されているものに対して好奇心を持ったことはここだけの話にしておきたいと思う。

そうこうしているうち植林事務所に着き、いよいよ植林がスタートした。植林をしたのは数本だけであった。植林後、事務所にて昼食をとっている時に壁に張ってある写真について教えてくれた。1999年のこの場所の写真だという。いまは木や草が生い茂り、払いのけるほどのところもあるが、写真では、黄土色の地表がほとんど見えている。植林の大切さを感じたと同時に、一朝一夕では成しえないものだ実感した。緑化は一日にしてならずということか。私の植えた数本もゆくゆくは大きな存在になるのだと考えると成長を見届けに戻りたいと思った。

そしていよいよ山頂を目指して登っていくことになる。はじめはゆるやかに始まったが徐々に道は険しくなり息もあがる。しかしみなさんがすいすい登っていくのを見て負けていられないと気合いを入れなおし登った。どんどん道は険しく急になり、両側が崖にはさまれたところを登る。そこを我々が疲れながらも着々と登ることができたのはそこにセメントで固められた道があったからである。その道を作る苦労は私には計り知れないものだろう。さらに驚いたのは山頂に南天門という大きな石碑があったことだ。話によるとかつて村一番の力持ちがたった100円で1日で道の整備されていない時代に運んだとのことだった。そんな昔話の登場人物が実在したのだったら、一度会ってみたかった。

【S.S記】

7:00 朝食。みんな元気。

8:15 徐々に皆集まる。昨日と違うバス。中国側、王萍、小李、魏さん、準備万端。

8:31 I女史が遅れる。でも1分ぐらい。みなが早かった。

前中代表が今日の予定を説明。水積みであるからね。自由に。1時間弱で植物園。

××説明

2200m 太白維山、観音様が寝ている。

植物園—昔 4 時間かかった渋滞、今はハイウェイのおかげか少しすいてる。

南天門の由来説明、立花前代表以来のはなし。咲くやこの花館館長。

李向東氏、リンゴ園管理人。引抜きのはなし。立花さんが本人を見ずにリンゴ園の管理の様子を見て推薦という。

車内で前中さん南天門植物園までの経路等の話。高見さん、今日までの南天門植物園作りの概要を立花さんを絡めて話す。

8:46 太行山脈、溪谷に入る。雄大な岩の作る景観にシャッター音が響く。かつての畑にポプラ造林（ギンヨウポプラ）、退耕還林……。前中さん、道沿いのヤナギ、ポプラ植林で観光阻害！とご機嫌ナナメ。道々シンジュ（ニワウルシ）Ailanthas 成育。ダムができた。そこへ向かう道もできた。延ばしている。

8:50～9:00 太行溪谷抜けた。空いている。対向車稀。

9:09～9:16 魚鱗坑見に降りる。ビャクシンとコノテガシワの植林が進行方向右手斜面に。植林後 4～5 年生位、3m 位か。柵があって林内に入れず、魚鱗坑見られず。

カシワとは中国ではヒノキ科ビャクシンやネズの類、乾燥耐性と前中先生。

高見氏、恒山の上で撮った陽坡、陰坡の植生の違いの写真がダイエーのエコカードに採用され、150 万円入ったとの話する。

9:29 南天門植物園分岐。バスを降りて歩きはじめる 30 人。

9:30 Start. ウツボグサ、ツリガネニンジン、ウイキョウ、ノコンギク、ボタンズル、クサボタン、ヒエンソウ、などの中国版が咲き乱れ、観察。トウモロコシも順調。1～2m の大きさ。

10:40 植物観察しながら道草食いながら南天門植物園作業舎着。staff 勢揃い。好天一ほぼ晴天。みんな元気。作業舎ないの写真 4 葉前にこの植物園のはじまりから現在まで高見、説明。

10:52 作業準備。李向東、19 年ここでやってきた、植物園の概要説明。

・今年は雨多い。

・この山には 80 科 600 種ある。

10:55 植林＝植樹。アブラマツとコノテガシワ用意。40 本程。登りに向い左尾根の下部、ヤナギ植林地。ヤナギ枯れ病らしい。あと地造は、穴をつくっておいてもらった。大勢あつまり、植樹と水やり、ヤナギの樹下植栽になった。ダメかな。

苗は 1m～1.2m の大苗。真っすぐに植えるのに苦労。気にせず斜めのままのものもある。最初の直が大事。育った根の入っているポットを外して植えるのも大事。活着に響く。

11:40 終了。戻り、昼食。ラーメン、ゆでたまご。

12:30 昼食後出発。頂上行き高見組と、中腹前中組にわかるる。

13:12 ヒメウラジロの谷。休。

トラハシバミ、ツノハシバミ、たくさん。

14:02 モニタリングプロットの説明 by 高見。モンゴリナラ、リョウトウナラあるが結局同種でないかの意見（大住ら）。カシワ、ナラガシワもある（高見）。

・記念松（50 年）のある横道を通り、モニタリングプロットで高見説明。現地スタッフもモニタリングプロットを造成したとのこと。

14:55 南天門山頂着。女性元気。河北省側は地肌露出斜面目立つ。山の河北側はカラマツ植林。よく育っている。植物園側はアブラマツの緑が濃い。

15:10 戻り、横道分岐。M.A 氏と戻る。

15:35 山みつつ着。はれ。

15:50 出発。

16:30 バス着。

17:15 太行山脈、溪谷出る。遠望、ダムを作っている。

17:40 ホテル着。

18:30 夕食。王萍、小李の他に霊丘総工会から書記以下 4 人同席。前中さんと書記乾杯、ついで M.K さんとも乾杯。夜、M.I さんシャワー室で転んで手骨折とのこと。

（编者より：S 先生、日誌はメモではありません！ 必死で判読しましたが、2 箇所ほど不明な箇所がありました。）

【S. A 記】

今回は2014年4月に初めて参加して以降、2回目の参加となる。必ず、いつか再度訪れよう 若い人（学生さん）に伝えてぜひ参加してもらおう できれば健康を保ち今後も参加したい、と思っていたのが、やっと が今回実現した。前回との比較でどんな変化があるかを確かめるのが楽しみだ。

朝6時起床。昨日の疲れもあってよく眠ることができた。体調はいたって良好。今回参加メンバーで1931年生まれの大先輩が2人もいるのにはびっくりした。お二人からはいろいろな話を聞いたのはよかった。健康維持第一に、好奇心旺盛で前向きに人生を楽しんでおられる姿には感服した。

朝食は1F、7時よりバイキング方式で自分の好きな料理をとって食べればよいが、さすが中国、朝から中華。パン、コーヒーというわけにはいかない。やはり、おいしい入れたてのコーヒーは欲しいな…。

8時30分出発。今晚は同じホテルなのでいくぶん気楽に全員集合。ペットボトル持参とあったが、飲料ボトルが、バスでも部屋でも現地小屋でも手に入ったので不要だった。もっぱらペットボトルを利用。ありがたかった。

一路南天門自然植物園へ向かって高速道をひた走り、と言いたいが、拡巾工事のためや、ほこりだらけの未舗装道路を走るので、あまり快適さはない。次回には問題解決しているだろう。高見さんの独特なだみ声の各種案内はなかなかおもしろい。日本人の感覚と中国人とのズレがあちこちにあるという。当然といえば当然だが、そうしたなかで25年間もこの植林の仕事を続けてこられた忍耐と情熱には心から感心しています。

バスに乗ること小一時間、南天門自然植物園へ向かう入口に到着。歩いて川沿いを上がっていく。途中拡巾道路工事のサイトがあり、大きなトラックが砂や砂利を満載して砂ぼこり塵を舞い上げて走るなかを川沿いの砂利道を歩き、途中から通常ルートに。10時45分、緑のセンター小屋に到着、中国人の担当者が入口で我われを出迎えてくれた。ここまでは車でくることはできる。

さっそく高見氏より植物園設立当時の状況説明を聞く。そして、それぞれスコップ、小型クワ、バケツ（水入り）をもって植林現場へ移動。道なき道をトゲのある木の枝を払いのけてたどりついたのはすでに今頃に植林した木が育っている間の場所に、あらかじめ中国人の担当者の人が掘っておいた穴に苗木をおよそ20本植え、土をかぶせ、水をまいた。無事に大きく成長するようにとひとりひとりの祈りを込めて植えた。年、月、日などの表示板などがあると記念になるとの意見もあった。

昼食は管理棟にて、カップラーメン、パン、ソーセージ。おいしかった！ 12時30分、南天門方面を目指して登山。途中高見氏による懇切丁寧な説明を聞きながら必死におくれないう、ひたすら足をはこぶ。日頃の運動不足解消にはなったが、かなりきつかった。南天門山頂到着。やはり全体を見渡せるポイントは最高。よい思い出となった。眼下に広がる山肌に広がる緑の樹木のようにすはあらためてGENのみなさんの努力の結果だとわれわれ日本人としても誇らしく思いました。

16時40分ホテル無事到着。さすがみなさん達成感もちながら疲れた！ 18時30分夕食会。昨日に続いて2部屋で楽しい交歓の時間を楽しんだ。

● 8月28日（日）

【C. A 記】

「神様、仏様、王萍様」の心境です。27日深夜から28日未明にかけて襲った“悪夢”の病から救ってくれたのが王さんでした。一時は歩行も思うにまかせず、病院にかけこんで旅行もこれまでかと思いつめました。

高齢のご同輩が多いこともあり、後学のため記します。

病とは、小水が出なくなったことです。強い尿意を催しても全く出ない。痛みが強まる。トイレからベッドに戻ることもできなくなり、雪隠詰めのありさまに。2年前に親しい友人をなくしましたが、膀胱がんとわかる前に幾度となく排尿困難の激痛に襲われ、救急車やタクシーを呼んだと聞いていたので、ついこれかと思ってしまいました。

2004年夏以来2度目、初めての霊丘県、渾源县なのに、出だしでつまずくとは。

朝7時、食堂前で東川事務局長に相談し、ホテルにいられていた王さんに助けを求めていただきました。王さんは開口一番「何か療法、物理療法を試してみましたか」。前立腺肥大に伴う頻尿や残尿感を改良する薬剤を以前東京で処方され、この深夜にあわてて吞んでいたけど、「物理療法」って何？ 説明では、下腹部を温める（湯煎タオルなど）、蛇口から水を勢いよく出し、その音を聴きながら放尿をこころみる、の2点でした。早速ポットで湯を沸かし、試みることに15分、摩訶不思議、出たのです。1時間で3回の成功。トイレで万歳したのは初めてでした。王さん、東川さん、ありがとう。おかげさまで旅行の最後までご一緒できそうです。

さて、本題の旅行日誌の部分ですが、いかんせん、寝不足とパスした朝食がたたって歩けばヨロヨロ、車の

中では寝てばかりと、役に立ちません。なんとか記憶に残っているのは、懸空寺への長い登り階段で延々待たされてもじっと待つ中国人（日本人はもちろん）、呉城郷の実に広大なアンズ畑でした。いただいた仁杏子のお菓子もなかなかの味でした。歓迎の挨拶の中で、県書記と地元の方が共に「ありがとう。これからも来てください」と言われたときには、少し重たい気持ちになりました。あの杏子菓子を日本でもおやつの一つにならないものか。

GENの地元相方、総工会の柴京雲さんご招待の舞踏劇に出かけられなかったのが残念でした。参加された方、どなたか、触れて下さいね。お粗末様。

【H.H記】

早朝8時30分頃、霊丘県、国際明珠酒店を出発。渾源県の懸空寺をめざす。同寺院は北岳恒山の山麓にある名利絶壁にへばりつくように建っている空中伽藍は壮観であった。北魏太和15年の創建らしいが、資料的根拠は不明。

13時頃、渾源県城のレストランでお昼を食べ、14時30分頃、呉城郷の杏子園に到達。黄土高原上から見渡す限り杏子林が広がる。

そこで緑の地球ネットワークに協力しているお二方の共産党幹部よりお話を聞く。お一方は郷の書記とのこと。杏子林のおかげで村の暮らし向きが豊かになったそうで、単純に地球環境のために緑化を進めているのではなく、それを通して地元の人びとの経済的利益もはかっていくことも大事だと感じた。理念だけを押し付けるのは傲慢である。昨日の霊丘県の南天門植物園といい、本日の呉城郷といい、日中戦争のため日本人を恨む人びとが多い地域である。そのような状況で緑化を推進していったのは人並みならぬご苦労があったように思う。事実、高見さんから、緑化に協力する共産党の青年たちが村の反対者と膝を交えて何晩も説得にあたったことを聞いた。そのお話をふまえて、杏子園の雄大な景色を眺望すると、賛嘆せざるを得ない。南天門の事務所の入口でさりげなく中日邦交正常化40周年の記念碑がたずんでいるのを間近に見た。その記念碑には短文で「国交正常化を実現するために友誼を促進し、そして辛勤耕耘した一般の日本人」と刻まれていた。その言葉の重みを、改めて強く感じた。中国学にたずさわる私が、今後どのように両国の友好関係に貢献できるか、じっくりと考える良い機会となった。

杏子園見学の後は宿泊する雁北賓館へ。18時15分、夕食。19時、民俗歌劇を鑑賞。幸いにして、一部字幕がスクリーンに映し出されたため、あらすじを理解することができた。内容は山西北部の結婚習俗を題材としたものであったが、最大のヤマ場で日照りと大風によって飢饉となり、夫が新婦を残して西へ出稼ぎに向かう場面があり、改めて山西北部の自然の厳しさを認識させられた。

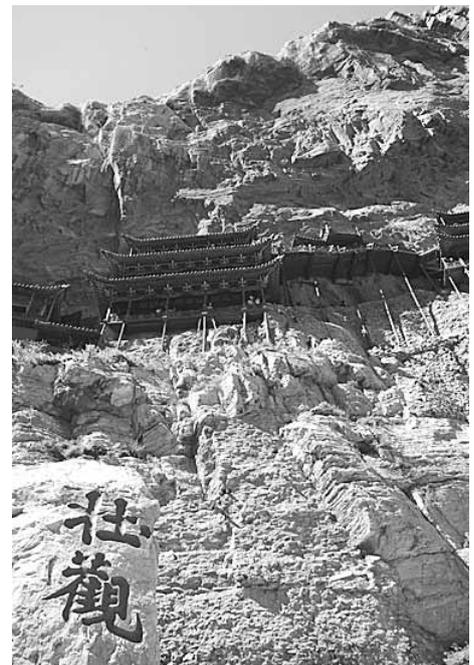
【M.A記】

6時30分起床。昨日の筋肉痛をひきずりながら今日は懸空寺へ。バスのなかではトラックが乗用車に道を譲る話やお墓の話の話を聞きました。中国の習慣が少しづつわかってきておもしろいです。懸空寺のチケット購入を待つ間、中国のかたに写真撮影を頼まれたので「一、二、三（イー、アール、サン）」と言って撮りました。入場すると寺に上るための長蛇の列が。でも並ばないわけにはいきません。懸空寺は北魏の時代に最初造られました。現在残っているのは明清時代のもらしいです。寺のほか「壯観」と赤い字で刻まれた岩も名物らしく、字を書いた人があまりの見事さに「壯」の字に点をつけてしまったのだとか（壯、観）

寺に登ると柵が低く通路が狭く、高所恐怖症でなくても足がすくみます。とくに3階部分は写真を撮る余裕が私にはありませんでした。寺なので仏像が置かれていますが、中国の礼拝は座って頭をつけてするらしく、黄色い分厚いクッションが置かれていました。フカフカなのかなあ。しかしなぜこんな岩壁に寺を作ったのか…。屋根の装飾もキレイでした。参観後トイレに行っていたらみなさんを待たせてしまっていました。すでに予定時刻を過ぎていたのに申し訳ないです。

昼食のレストランに向かう途中だったか、風力発電機が山に設置されているのを見ました。いま政府は再生エネルギー政策をすすめているのだとか。昼食は渾源県のレストランでした。干し豆腐を食べましたが割と肉っぽい味でした。最近の中国ではウェイターさんと呼ぶとき「美人」と呼ぶと快く対応してくれるそうです。

午後はアンズ果樹園を見るため呉城村へ行きました。バスで高見さんが貧困と植樹のお話をしてくれました。アンズのおかげで収入が



5倍になり、村から大学生を送りだせるようになったそうです。現地の人は「もともと貧しかったから貧しさは怖くないが、『貧乏だからしょうがない』というようなあきらめがよくなかった」と言っていたらしいです。植林のおかげで洪水にも耐える土地になっただけでなく、貧しさも改善された。なんだか紙面におこすと話がうすくなってしまいうけれど、話を聞いたときは感動しました。なぜ樹を植えるのか、そこには一言では表せないエピソードがたくさんある気がしました。

果樹園につくと現地のかたがアンズの種をたくさんくれました。ナツミたいでおいしい!! でもお腹いっぱい…。袋の裏面にはアンズの種のもたらすあらゆる健康作用が書いてありました。以前加藤登紀子さんが来て即興でアンズの歌を作って歌ったそうです。高見さんは「若いひとは加藤さん知らない」と言いますが、20代はまだ加藤登紀子さん分かります。少なくとも私は。

ここで作られるアンズは種が大きく実が少ない種類ですが、化粧品や薬剤にも使われるようです。現在村でのアンズの管理者がいないのと、温暖化で花がはやく咲き、寒波にやられてしまうのが課題だそうです。

その後、メガソーラーと桑干河（北京の水源）を見る予定でしたが、道路工事の影響でメガソーラーは断念。河は一瞬見えました。道路わきにはポプラ（小老樹）が並んでいました。

記念植樹はなぜか中止になり、大同市内へは16時30分頃到着。今日のホテルはシャワーにしきりがついていてよかったです。夕食まで時間があるので大同散策、城壁の外は市街地でした。公園には偉人の像があり、太武帝(?)と孝文帝だとH.Hさんに説明してもらいました。後者は中国では砂漠化政策をすすめたとして好印象のようですが、実際は鮮卑族の習慣も残していたのだとか。外国史研究は自国史研究より国家的なバイアスが少なそうなので、そういった面で歴史研究に貢献できるかなと思います。

露店もひとつお見物しました。おもしろかったです。夕食は肉やぎょうざが美味しかったです。夕食後は歌舞を見ました。赤ヘル白ヘルなどの軍団がいました。思っていたよりおもしろかったです。男女が出会い、結婚準備をして結婚式、出稼ぎによる別れ、成功して帰還というストーリーでした。中国語がわからなくても音楽や踊り、表情、衣装などで楽しめました。フィギアスケートのペア演技のリフトっぽい踊りもありました。終劇後は花束がおくられ、子役は果物あめの串刺しもらってその場で食べていました。



一息ついてお風呂に入り、床ですべて転びました…。

● 8月29日(月) 晴

【A.K記】

8時30分頃にホテルを出発。昨日初めての2人部屋だったが、共同生活の難しさを強く認識する。寝不足の体で緑の地球ネットワークの「中日合作白登環境中心」を訪れる。まずは竣工式。大使館の方なども訪れ、火花が上がる。その後記念植樹。アブラマツを植える。その後園内を見学した。年配の方がたは中国に対する知識だけでなく、植物に関する知識も深い。とても広く、2日目と同じくらい歩き疲れた。体調をしっかり管理しなくてはならないだろう。日本を離れ娯楽不足でタイクツしないか不安であったが、毎日が新鮮でまったくタイクツしない。でもPC環境が悪いのがやはり不便である。

昼食はさまざまなオカズが出た。人生初のスッポンを食した。おいしい。こちらのトウモロコシはゴムみたいに粘り気がある。飲み物がすべてビールなのも慣れた。日本と違い、こちらはアルコール度数も弱いのでなんとかなる。ビールが水より安いということなので、この状況も納得だ。

カササギの森ではGENの活動成果を目の当たりにできて感動した。夜に羊のしゃぶしゃぶを食した。火鍋というものを初めて食したのだが、かなりからかった。しかし美味かった。いろいろと政治のお話などをうかがうことができて興味深かった。明日からも頑張って活動したい。書ききれなくて申し訳ありません。

【J.Y記】

朝食後、緑の地球環境センターに向かう。途中、通行止めになっていた道路が、しばらくすると、バーが上がり通れるようになった。センターでは記念植樹をした。1~2人に1本ずつのアブラマツを植えた。初めての大同ツアー参加で、植樹のやり方をまったく知らないの、先生の説明を聞き、センターの男の人の手助けも得て、2人がかりで植樹した。記念植樹のために既に穴が掘られてあり、苗とスコップが用意されていた。25年前からの植林は苗、道具、水を運び、穴を掘り、を頑張り通したんだと思うと、頭が下がります。その後、センター内見学。昼食は食堂で、すっぽんもあり。

午後はカササギの森見学。植樹はおわり、現在は維持管理。寄付者の名前を彫った石碑があった。

ウォルマートで買物。夕食は羊のしゃぶしゃぶ。

食事のたびに感じるのは、出てくる料理の種類と量の多いこと。中国では“完食”は量が足りなかったことになりよくないと聞かすが、それにしても残っている料理の多いのが気になる。ただこれは祭り事やお客へのもてなしの時だけかもしれない。

南天門自然植物園、アンズ果樹園、地球環境センター等、どこに行っても植物が大きく育っている。風が吹けば飛んでいくような黄色い土から、茶色や黒っぽい土になっていた。植林は木を植えた後の維持・管理が大事と GEN の方（たぶん高見さん）が話されていた。小さな規模なら水やり等分かるが、このような大規模の場合の維持管理は、具体的に何をするのかよく分からない。明日、聞こう！

【M.K 記】

もりだくさんな一日でした。

朝バスに乗り込み、緑の地球環境センターへ向かう。途中工事のため封鎖された道路が、何かの魔法か、開けゴマのごとく開き、無事センターへ到着。「作業と見学」と思っていたのが、本日センターの竣工式に参加します、とのこと。センターは既に開設しているが、二年越しの式だとか。北京の日本大使館からも人が来られて花火もあがり立派な竣工式でした。思いがけず参加することができ光栄でした。記念植樹をした後、センターを案内いただきましたが、想像していたよりも広大でした。23ha と数字を見てもイメージできなかったのですが、自分の足で歩いて、育苗や実験のようすを少し理解できました。入口の花がきれいだったこと、昼食がとても美味しかったことも付け加えておきます。

昼食後采涼山地球環境林を見学しました。成功が難しいと言われていた南斜面の地区で成功に至った3つの要因を教えていただき、5～6mに伸びた松林を見て、GENの活動の成果の一端に触れて気がします。私が前回ツアーに参加したのが98年でした。采涼山での植林が2000年からとのことでしたので、自分があのかき植えた木もこんな風に大きくなってきているといいなと思いました。

その後カササギの森を見学し市内に戻りましたが、途中いくつかGENの携わった森が見え、あんなに濃くて広い緑が、長年の成果で、純粹にすごいなと思いました。

キラキラした高級火鍋屋さんで夕食をいただき、ホテルに戻った後、S先生のお部屋で二次会？反省会？に参加。眠気まなこで日誌を書いています。誤字脱字、文章の乱れはご容赦ください。

ツアー参加にあたって予習にと2013年発行の22年のあゆみを一読してきましたが、実際自分の目で見て、現地で話を聞いて、より具体的に感じることができました。明日からも目一杯学んで感じたいと思います。

【S.T 記】

08:30 雁北賓館出発。

09:00 大同県王千戸村、緑の地球環境センター着。

09:30 中日緑色地球環境中心緑化基地建設項目竣工式に参加。

日本大使館一等書記官 前川紘一郎氏

大同市総工務局副局長、柴京雲氏

GEN代表、前中久行氏、通訳を介して3氏が挨拶。

大同黄土高原における長年の中日友好、互いの協力と努力により今日まで活動を続けられたこと、結果、緑化が進んだことに、互いの感謝を述べられ、ここに新たに緑化基地が竣工したことにより、さらなる発展を祈念しての挨拶であった。

10:00 式典後、30本ほどアブラマツの記念植樹をした。

10:30 敷地約25haの王千戸村緑化センター内を前中代表と高見副代表の案内説明のもと見学。

樹木は、ポプラ、ニレ、アブラマツ、胡楊、ネズミサシ、ブルーノ等。畑には、スイカ、大豆、ジャガイモ、アワ、キビ、トウモロコシ、玉ねぎ等。花壇にはダリア、コスモス等、たくさん美しく咲いていた。

私にとって、たいへん参考になりました（福島県の江湖村、広島県のビオパークでの実験）。ありがとうございます。

隣地とのフェンスの向こうには村民のものと思われる墳墓がたくさん見られた。センターの敷地ももとは同様の墳墓があった所を強制撤去させた後に植樹したと聞き、違和感を覚えた。

12:00 緑化センターで職員さんの手料理バイキング。おいしくいただきました。

13:00 センター出発

14:20 聚楽郷采涼山地球環境林、カササギの森見学。約500ha?の植林の成果を見る。広大な黄土高原での植林の苦勞を考えさせられる。

3m 間隔のうねを作り、その畝の北斜面に1m ごとに幼苗木を植えるなどの工夫、それまでの失敗談を聞き、大変参考になりました。毛沢東時代の大躍進政策のもとに掘ったムダな池の話、私には考えさせられました。

16:00 カササギの森出発。

17:15 ウォルマートで買いもの。

18:30 北部国際酒店で夕食。火なべ。

20:30 雁北賓館にて解散。

次回も参加できるなら、一昨日、昨日の村の人びとの生活をのぞいて見たい（家の作り、生活様式等）。



● 8月30日（火）

【Y.N記】

朝食のバイキングにあった蒸しパンがとてもおいしかった件について。全体的には昨日のほうがよかったです。1つだけやみつきになったのがこれです。クリーム色の蒸しパン。2つも食べてしまいました。

あんまんと同じ生地



〈断面図〉

あんこっぽい食感・味と香りはカスタードクリーム!

エレベーターで降りるときふと気になったのですが、「12人 PERSONS」って英語はありなんですか？ 私だったら PEOPLE したいです。中国で見かける英語や日本語はときどき（しょっちゅう）よく分かりません。

雲崗石窟について。第一窟から順番に看板を見ていきました。第二窟の「寒泉洞」が Cool Spring Cave と示されていてカッコいい!と思ったのですが、その後三は Ling Yan Cave だったり四は Cave No. 4 だったり、味気ないなあと思いました。石窟は思ったほど広くはなくて、少し物足りない感じですが、88 円で衝動買いしたパンフレット（本）を帰ってからじっくり読みたいと思います。ちなみに第二十窟前（集合写真をとったところ）が写真スポットで、写真を撮る人の群が絶えないので、看板に近づくのをためらっていたところ、長坂さんが「図々しく近づいていいと思うよ、中国人にならって」というので、図々しく遠慮なく近づかせていただきました。

万人坑は多分一番楽しみにしていた目的地でした。建物内の見学で、解説は英語と日本語もあり（ひらがなや表記が多少不自然ではあった）、写真を撮りつつ一枚ずつ丁寧に読んでいきました。建物の中はうす暗く、当時の炭鉱の中をイメージしたような造りになっていたり、炭鉱で働く人びとの再現を見ることができました。日中戦争なんて歴史で学んだ教科書の上の出来事、という認識しかなかったのに、実際その場所に行ってみると、歴史が生きたものを感じられました。日本人がしてきた残酷な支配やその写真を見るにつけ、どうしてこんなことができたのだろう、同じ人間なのに、と悲しくなりました。それでも、周恩来の言葉の意味を教えてもらったときに、なんだか救われた気分になりました。中国人が被害を受けたのと同様に、日本人民も軍国主義によって被害を受けた、という客観的な立場で言葉を残していたということ。日本人というだけで中国人に忌み嫌われているという印象も強いのですが（個人的に）、一般市民同士でいがみ合っても仕方ないのかもしれないと思います。現代に生きる私たちのせいではないのですから。ただ知るべき歴史を知っておくことは大事だと思いますし、そういう意味で今回ここを訪れて、歴史を肌で感じられたので、大同に来て良かったです。日本人にもすすめます。

これまでに個人的に一番気に入ったものは大同のホテルの近くで買った梨ジュース！ 常温が多いところ、冷蔵で売っているのを見つけたので即買いました。ペットボトルのぬるい水と白湯とお茶とビールばかりの生活に潤いがもたらされました。パッケージはこんな感じです。



黄色いボトルはいろんなところで見かけますのでおすすめ。似たような梨ジュースもあるので飲み比べてみたいです。

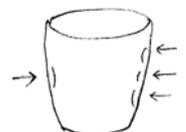


ジャガイモの実

昨日の新しい発見。ジャガイモの実なるものを初めて見ました。その辺に疎いので、トマトにそっくりなこの実がイモになるのか?! と思ってしまいました（ジャガイモは土から掘りますね）。

最後に今日お昼のレストランにあった湯のみが日本らしいデザインで、持ちやすいようなくぼみがあったこと。ひそかに感動していました。指がフィットしました。

夜行列車は日本の寝台列車とどのくらい違うのか楽しみです。駅に入るときセキュリティが怖すぎてまわりの人についていくので必死でした。



【K.N記】

2011年以來5年ぶりの大同。予想していた以上に、GENの活動地も街の様子も大きく変わっていた。

雲崗石窟

石窟までのアプローチの部分に、石窟そのものよりもずっと巨大な観光地をまるごと造成して、観光地として仕立て上げる図太さに驚いた。こういう「本物じゃなくてもいいじゃん」哲学は、本物志向がとても強い日本の社会と真逆。隣国とはいえ、大きく異なる中国社会の特徴を再確認できた。

万人坑

雲崗石窟と同じく、前回来た時よりも建物が大增築されていたことに驚いた。何人が埋められた、という数値よりも、労働力として使えなくなったら埋めてしまう、という非人道的な行為が行われたこと自体を事実として知っておかなければならない。

その門番が飼っている子犬が2匹、かわいらしくて若手の団員はこぞって写真を撮影していた。それはいいのだけれど、万人坑で埋められている人々をまず悼んでから、という順番をきちんとしてほしかった。周りで見ている眼があることを忘れてしまったのだろうか、日本人が万人坑という場に来てどういう態度をとるべきだったか、よく考えてほしい。

口泉植物園

変わり方が衝撃的。昔の地球環境林センターは、僕にとっては森林について深く関心を寄せることになった特別な場所だったので、とてもつらかった。日本に帰ったら、昔の写真を探し出して、当時の様子を思い出したい。

食事

毎度毎度の食事がとてもとてもおいしかった。外食の値段が相当安い。例えば今日の昼食だとビール付きで一人600円（日本円）。これならば、北京からわざわざ大同料理を食べにくる人がいる、という話も分かる。

ダイエット中なのに、あつという間に2kgも太ってしまったのは誤算だったけど。

日本で見聞する中国関連の情報は、領土問題と曲がり角にあるマクロ経済情勢に集中しているが、これらは高度に政治的な話であって、中国社会の日常とはほとんど関係ない。「上に政策あれば下に対策がある」国であるからなおのこと、報道では知ることのできない、現地で見聞することの大切さを再認識できた。

【T.I記】

9年ぶりに雲崗石窟に行き、導入路の長いのにびっくり。前は5、6窟の前に入口があった。それと第3窟が見られなかったのが残念。ここで私が最も敬愛していた仏様だった。昔のままの仏様も出会え、老体をなぐさめてもらった。

万人坑。ここも2001年に来た時大きなショックを受けたが、様子が一変してやや興奮め。ただ導入部の説明は、執拗ではあるが若い人には必要ではと感じた。高見さんの説明をもう一度みなさんに聞かせたい。こんなことが二度と起こってはいけません。

地球環境林センターの跡地に行きました。残っていたのはシダレニレ3本だけ。その他は全く記憶にありませんでした。ただ市民が三々五々散歩している姿が印象に残りました。初心は失われていないと。

2001年私が最初に参加した年は4か月雨が降っていないとかで、7月というのにトウモロコシは30cm。ジャガイモは芽が出たまま、ポプラは先が枯れ、葉は落ち、見る影もない有様でした。その強い印象から、黄土高原、乾燥という認識が植え付けられていました。ところが、今年は山々は緑に覆われ、トウモロコシは2m近く伸び、豊かな環境を見ることができました。こんな年が続くことを願ってやみません。

● 8月31日（水）

【M.T記】

早朝大同から列車で北京西駅に着いた。4時50分に駅にホームに到着したが、バスまでの時間がかかり、5時半ようやくバスが発車、近くのサウナに着いた。久方ぶりに風呂に入り、ゆったりとした気分になれた。

7時からサウナで朝食をとり、7時50分にバスは出発、故宮の東門に8時30分頃に着いたが、あまりにも観光客が多くて、入場できたのは9時半頃であった。

11時に景山公園の前の南門に集合することになり、故宮観光は各自勝手に行動することになったが、故宮の基本となる説明が聞けず、初めて来た人たちには残念な見学になったのではないだろうか。我々のツアー客が30人ぐらいと多いので、なかなか難しいことではある。

昼食は王府井のapmビルの5階にあるギョウザ専門店、ギョウザ料理をたくさん食べた。

2時前に中国人民対外友好協会、宋敬武副会長や中日友好教会の許金平副会長との会談が行われた。2時50分頃から、大講堂で、高見副代表の「中日友好使者」称号授与式が行われた。約200名の人びとが出席し、25年間のGENの活動が高く評価された。おそらくGENの植樹活動の一大エポックとなることであろう。大変名誉で嬉しいことである。

【K.S記】

4時30分 夜行列車で北京西駅に到着。駅を出て、北口の広場でバスに乗った。

5時30分 賽納河というサウナでシャワーを浴びて、朝食を済ませた。快適な短い時間だった。

7時50分 サウナー階のロビーで集合、故宮に向かう。通訳の唐さんはバスの中で故宮の歴史について簡単に紹介してくれた。故宮に行く途中で有名な人民大会堂と天安門広場を通過した。いよいよ故宮の前に到着。唐さんはみなさんのパスポートを集めて、入場券を買いに行ったが、わたしはパスポートと身分証をバスの中に置いてきてしまったので、入場券を買えるかどうかちょっと不安。唐さんと一緒に切符売り場の人に聞いてみたら、幸いなことに、身分証の番号がわかれば、入場券を買えるそうだった。それで、ちゃんと覚えている身分証の番号を教えてあげて、入場券を手に入れた。

入場券を手にして、みんなで一番南の太和門から入って、そこで一旦解散して、11:00に一番北の神武門で集合するという唐さんの命令があった。故宮は二回目だったが、前回は中軸にある宮殿だけを見たので、今回は東と西の宮殿をちょっと回ってみたい。まずは、東六宮を参観してみたが、開放している宮殿はもとのままではなく、きれいに内装され、陳列品が並んでいるだけで（もとの様子を見たかったのに…、ちょっとがっかり。西六宮もあるが、やはり東のと変わらないだろうと思って、行かなかった。

11時00分 故宮の北門である神武門で集合。故宮を出て、15分ぐらい歩いたところでバスが待っていた。これから、昼食を食べに行く。昼食は王府井の五階の餃子屋で済ませた。餃子の具は種類が豊富で、すごくおいしかった。

13時25分 王府井一階のエスカレーターのところ集合、13:35に出発。GEN25周年のシンポジウムの会場に向かう。

14時00分 シンポジウム開始の前に、高見さんと前中さんは中日友好協会の会長と副会長と友好的雰囲気の中で会談を行った。14:35に「中日友好使者」称号の授与式が始まった。まずは、司会者は中国の元文化部長をはじめとする来賓を紹介した。次に、中日友好協会の副会長から簡単な挨拶。「中日友好使者」の称号を黄土高原の緑化事業に大いに貢献した高見さんに授与した。それから、受賞者の高見さんからの挨拶。そのあと、中聯部副部長劉洪才さんからの挨拶で、高見さんの貢献を高く評価した。続きまして、前中さんと中国全国総工会国際部の副部長、日本国在中国大使館公使山本さんから挨拶。最後に、高見さんは「四半世紀の歩みとこれから」というテーマで講演され、緑の地球ネットワークのこの25年間の協力事業を顧み、これからの事業方針を紹介した。高見さんの講演が終わった後、2016黄土高原スタディツアーの参加者全員で記念写真を撮った。

17時00分 シンポジウムが終わり、中日友好協会を出た。夕食まで少し時間があるので、時間つぶしに王府井のデパートと近くの書店を回ってみた。18:00に集合。黄鶴楼というレストランで晩ごはんを食べた。料理はおいしかった。

20時00分 ホテルに到着。楽しかった一日だった。

今回のツアーを通じて、高見さんをはじめとする日本の方々はこの25年間の緑化成果をこの目で確かめ、そして植林をこの身で体験でき、いい勉強になると同時に、一中国人として深く感銘も覚えた。

【K.K記】

30日 17:30頃、夜行列車に乗るため、荷物整理。早朝にサウナに行くための着がえや、31日の日中に行動する時に必要なものを手荷物にうつした。夕食までの時間が空いていたため、複数人で散歩に出かける。公園のようなところを通り、城壁まで。新しく建てたものらしいが、近くで見ると迫力があつた。

18:30 夕食。大同での最後の夕食。記念に剪紙をいただいた。とても薄い紙を細かく切り、一つの絵にしており、すごい技術だと感じた。大切にしたい。

21:30 夜行列車に乗るため、フロントでチケット配布。バス内で、何号車のどこに乗るか指示をされる。

22:00頃 駅ではパスポートとチケットを提示、その後荷物検査を受け、のりこむ。初めての夜行列車でワクワクした。

23:00頃 乗ってすぐに出発。三段の内、中段にのる。車内はかなり暑く、布団はなくても大丈夫そうだった。チケットとカードを交換し、夜景を眺めていたところ、橋がライトアップされていてとてもきれいだった。気付いたら寝ていた。

31日 4:30頃 チケットの交換で起こされる。まだ暗いままだった。狭いところだったので、落ちるか心配だったが、ぐっすり寝ていた。しばらくして駅に着き、まとまって行動。

5:10 構内で多くの人が寝ていることに驚いた。また、お手洗いで顔を洗っていたりして、日本では見ることができない光景だと感じた。

5:40 サウナに到着。設備がとても充実していて快適。女性はピンクの服を渡された。

7:00 朝食。サンメイタンを初めて飲んだ。さっぱりとしていて飲みやすかった。バスに乗り、故宮へ。明の時代、3代目皇帝の永楽帝から使用され、その後王朝をまたぎ24人が使用。14年をかけて1420年に完成した建物。ある程度中に入ったところで、自由行動。まずは色々な場所を目で見たいと思い、特に行先を決めずにどんどん進んだ。西のほうを回ったが、仏様の彫刻が並んでいたり展示物も見ることができた。一番驚いたのは、やはりその広さ。これだけの建物を建てるのに14年しかかかっていないことも含め、日本だと考えられない場所だと思う。それだけ中国の皇帝の支配力の影響力は強かったという証しに感じた。しかし、展示品の多くは台湾にあると聞き、見られないのを残念に感じた。

11:00 神武門に集合し、バスのところまで移動。

11:50 Beijing apmに到着。5Fの順一府餃子店で昼食。5種類の水餃子やこいの煮付けをいただく。種類の異なる餃子をたべることはほとんどないため、驚いた。後で聞いたところ、中国ではそれは普通だそうで、日本の焼き餃子でももっと種類が増えればいいのにと考えた。

12:55 食事終了。少し自由時間、デパートの中をウロウロしたり、少し外に出たりと自由に過ごす。

13:25 1階エスカレーター前に集合。イベント会場へ向かう（中国人民対外友好協会）。会場に到着。高見さんに「中日友好使者」が与えられることを知る。まずは会議室のような部屋で、中国側、日本側と向かい合って座り、言葉のやりとり。カメラマン、橋本紘二さんのエピソードが語られる。話し合いのなかで、「両国民の心に友好の木」を植えたというお話を聞き、高見さんたちが25年かけて、心の中にも残るような活動にできたということに改めて実感した。

14:30頃 会場移動の際に出るのが遅れたため迷子になった。2階に行ってウロウロしていたら職員の方に「誰？」といわれたらしい。その後案内をしていただき、『“中日友好使者”称号授与儀式』に出席。高見さん、前中さんを含め、多くの方々からお話をうかがう。今回のツアーでは植林はほとんどしていないため、25年の苦勞をきちんと理解することは難しいが、その成果を目の当たりにしてきて、偉大さというのは理解できたと思う。10分休憩の後、高見さんから成果の説明（スライドショー）が行われる。そのときに、3つの行ってきたこと（防護林の建設、小学校付属果樹園の建設、ソフト面の協力と協力拠点）と、これからについて、写真をまじえた説明が行われた。今まで受けた説明の総まとめのように感じた。

16:15頃 式終了。挨拶や写真撮影が行われる。

16:45 散歩。王府井で買い物など、デパートや書店に行った。別の人たちは屋台でサソリなど（動いている）を売っているところを見つけたらしい。セミの幼虫やタツノオトシゴなど、本当に色々なものを食べるんだなあと思った。味は気になるが、食べようとは思わなかった。

17:50 集合

18:00～19:40 夕食。松鶴楼は古くから続いている高級店らしい。私のいたテーブルは人数が多かったためか、初めて食事中に食べるものがほとんどなくなるという状況になり、驚いた。

19:50 バスに乗り、ホテルへ。途中、招待されていた5人を拾った。ホテルの前はバスがとめられないため、500mほど前にとめる。そのため、荷物を素早くおろすことが求められた。降りてから移動中、野菜や果物、食べ物売っている前を通り、下町のように感じた。

20:30 ホテル到着。ビル風が強くて大変。ホテルは屋上に行けるらしく、夜か明日の朝に行ってみようかと思う。景山公園が見えるらしく、楽しみ。

初めての中国で期待と不安でドキドキしていたが、実際に6日間生活してみて、とても充実していたと思う。体調ものどがやられる以外は問題なく、食事もおいしく、植林した場所や観光した場所は本当に素晴らしかった。本当にぜひ体験をさせていただいたと思う。

少ししか触れ合っていないけれど、地元の人やお店の人は親切で、“中国人”というメディアによって作られた負のイメージはこのツアーでほとんどなくなったように感じた。多少、文化の違いで慣れないことはあったら、実際に来てみないと偏見はなくならなかったように思う。植林自体はほとんどすることができず残念だったが、良い経験をさせていただいた。最後となる明日も、思いっきり楽しみたいと思う。

【Y.K記】

今回の訪中は25周年の記念の年であった。本日8月31日に北京の中日友好協会で表彰を受けるのが山場だと言えるが、30日の大同総工会主催の歓送会は、実質的な最高の山場だったと言えるのではない。

夕刻6時30分、雁北賓館3階の夕食会場においては、主催者総工会（緑色地球ネットワーク大同事務所）の武女史が挨拶に立ち、25年間のGENの活動の歴史を述べ、「実にいろいろありました」と述べた。次いであいさつに立った前中代表は冒頭の発言の直後に泣き出し、席にいた高見副代表は眼鏡をはずして拭き、通訳に立った唐さんは涙を流して声をつまらせた。4人の胸中はわからないが、25年間に及ぶ辛苦はいかばかりであったかと想像される。わたしはまったくの部外者だから具体的には何もわからない。あえて言うならば霊丘県、渾源县、大同市その他GENの植林活動の地は、今次大戦に於いて住民を巻き込んだ戦場があり、日本軍が占領した地であり、日本人に対する嫌意、憎しみが強く残る場所であったと高見さんから聞いた。中国側は偶然なのか、あるいはあえてそのような候補地を紹介し、高見さんはそのチャレンジを受けて立って、25年かけて敵意、憎しみを和らげて友情に変えたとも言える。民族的憎しみを克服する長い孤独な戦いだったと言えば過言かもしれないが、客観的にはそのように映る。黄土高原の緑化は人の心の中に緑と花を植えるものだったが、戦後第一次世代による関係正常化への奮闘であった。今後の日本の次の世代の人たちにも理解してもらいたいものである。

大同市には間もなく新幹線が開通し、北京から1時間の旅程になる予定だ。大同は歴史、文化、緑の都市として日本人たちを引きつける可能性を秘めている（ここで自分の担当は30日でなく翌日の31日と気付く）。

さて、本日31日は朝5時北京西駅に夜行寝台列車到着、すぐに賽納河（Seine River）サウナで汗を流す。朝食のあと、午前中は故宮参観という素晴らしい企画。午後2時から中国対外友好協会において宋敬武副会長（対外関係全体を担当）、中国日本友好協会副会長許金平（日中関係を担当）、中日友好協会理事・事務局長袁敏道、理事・部長張振興とわが前中代表はじめ全員との懇談があった。これは公式常時前に慣行的におこなわれる非公式の懇談である。

午後2時30分に「中日友好使者称号授与儀式」が始まった。GENメンバーにはうれしい儀式だから詳細を記すと、張振興の司会のもとに

- ・中国日本友好協会副会長許金平が演説し、「中日友好使者」の大きなタスキと楯の授与。
- ・中国共産党中央連絡部副部長劉洪才あいさつ。
- ・高見さんの感謝のあいさつ。
- ・前中代表演説「授称は高見本人の荣誉であるばかりか、緑の地球ネットワークメンバー、大同の関係者、そのほか多くの者の荣誉である」と称えた。

以上で儀式を終えて10分間の休憩。

・記念講演 高見邦雄「四半世紀の歩みとこれから」では植樹の意義、これまでの歴史、成果、これからの対象地の張家口について写真を多く使いながら説明して4時30分に終了した。

この儀式と記念講演には我われ訪問団のほかに中国の役所の局長クラスの人びと（中国側の説明）、北京日本商會関係者、日本の報道各社のトップクラスの人たちの多数が参加していた。講演後に高見さんは日中両国の報道関係者のインタビューに時間を費やした。

講演会終了後は会場近くの王府井（いわゆる北京の銀座）を歩き、夕食会となった。

宿泊の華育賓館は驚くべき場所にあった。バスが入れない路地の中である。路地は古く貧しい小さな焼肉露店、八百屋、食堂、雑貨店などが続いていて、外見も匂いも人々も、生活臭ただよう「場末」だ。300mくらいの距離を、人と小型運搬車両をかき分けてトランクをガラガラ引っ張って歩いた。これもまた生の下層庶民生活に接するエキサイティングな体験だった。

一夜明けて早朝外出すると景山公園がすぐそばにあり、町は景山社区という町内会区域でコミュニティ活動も盛んなようだ。景山公園の山上から故宮が見え、ホテルの5Fテラスからも故宮が見えるすばらしいホテルだった。

●9月1日（木）曇

【A.Y記】

6時半起床。連日の疲れもあってか、よく眠れた。中国のホテルのベッドは当初想像していたよりもずっと寝心地がよく、毎日ぐっすりと眠れた。その後朝食。大同のホテルでは、朝食でパンはほとんど出ず、おかゆが多かったが、この日はパン食。料理の味つけも大同と北京では結構違うように感じた。私は北京の味つけのほうが好みな。

また、今回のツアーで初めて「飲むヨーグルト」が出ていた。ツアーの参加者の方におすすめていただいたので挑戦、これまた甘さと酸っぱさがちょうどよく、とても美味しい。

ホテルの屋上で故宮が見渡せると聞いてあがってみると、見事な景観。360度（とは言わないが）見渡すかぎ

りすばらしい建物の数々。昨日自分の足で見て回った故宮をこのように眺めるのも良いものですね。

その後チェックアウト。前中先生が近くに昔お姫様が住んでいた宮殿があるとおっしゃっていたので観に行ってみた。なるほど、お姫様が住むのにふさわしい、鮮やかな色合いの建物だった。「写真を撮ったら罰金2000円」と貼紙がしてあったけれどなぜなのか。誰が見張ってるのかな～？

9:10に雍和宮に到着。すでに人がたくさん。線香が渡されたので、見よう見真似でお参りをする。周りの人を見てみると、どうやら北の方角から3回おじぎをして、4方向で同じことをしているような…。昨日の故宮は、人びとの会話の声も大きく、お堂の中で写真を撮る人もたくさんいて、観光地化しているような印象だったが、故宮と比べたら雍和宮は少しだけ厳かな雰囲気があった。

その後北京空港に到着し、昼食。15時55分飛行機離陸。今回のツアーでは、GENの活動に少しだけ触れることができた。私が生まれる前から、高見さん、前中先生はこのような活動をされており、その間にたいへんな苦労もあったと思うが、大同の土地、人びとの生活をもっとよくしたいという信念のもと、継続し成功されたのには本当に感激した。前中先生もおっしゃっていたが、植林は環境をよくするだけではない、ということが少しだけわかったような気がした。また、普段関わることのない多くの方に出会い、いろいろなお話をさせていただくなかで、まだまだわたしは各方面で勉強不足であるし、でも人生の可能性は無限大に広がっているんだということを感じた。

高見さん、前中先生、東川さん、通訳の唐さん、そしてツアーで一緒だった参加者のみなさまには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

【T.Y記】

朝6時15分、1人でホテルを出て、街角探索に向かった。ホテル前の道路を右へ行くと、突き当たりの通りに面して公園があった。多くの人吸い込まれるように公園に入り、同じ方向を向いて歩いていた。集団で体操や踊りをするのかと思ってついて行ったが、何もなくて、向こう側に出てしまった。その向うには巨大な北海公園があるが、戻ることにした。

公園内の丘を少しのぼると看板があり、大きな音を出したり、踊ってさわいではいけないという法律が示されていた。そのためだ。体操、太極拳、舞踏集団が公園を占拠していたのがうそのようだ。

山の頂のほうに宮殿が見えた。これが故宮を一望できる景山だとあとで気付いた。

そのままホテルに帰らず、灰色の壁の街を歩いた。路地をふらついていると、胡同の文字が目についた。北京の庶民の住宅、胡同（フートン）だ。三眼井胡同、横棚欄胡同などがあつた。レンガの上に灰色のモルタル壁が塗られ、赤色の扉の右上のところに三眼井胡同30号、73号などとある。

ひとつだけ修理工事中の胡同があつたので入つた。真中に7m四方の中庭があり、これを囲んで9つの家があつた。部屋と言つたほうがいい。アルミサッシのドアと窓。各戸の広さはたつた8～10畳一間だ。住宅の一面にシャワー室があつた。胡同のあちこちに共同便所があつた。変だなと思つていたが、修理中の胡同を見て理解できた。胡同の各戸にはトイレがないのだ。生活の場なので、入口から通路をすこし入つて様子をうかがう程度にとどめたが、中庭にも建物があつて、カギ型の細い通路で各戸が向き合うものが多いようだ。

胡同については、謝晋だつたか、張芸謀だつたかの映画に、生活の舞台として印象的に描かれていた。胡同も比較的豊かな人と庶民とでは、その規模が違うのだろう。映画では、広い中庭が共同体の中心となり、四方に配置された家もけっこう広く描かれていた。その印象があつたので、実際に見た胡同はとても小さく感じた。

胡同は、政府による取り壊し、再開発の危機にさらされている。貴重な文化遺産でもあるだけに、慎重に願いたいものだ。

7時40分ホテルに戻つて、食事は少しだけにして、シャワーをし、荷物をロビーに出した。以上は個人行動だが、北京の風景を知ることができると思つて記した。

8時半、T.Mさんと別れた。T.MさんはK.I.さんを介助して13時の関空行きで大阪へ向かつた。T.Mさんご苦労さまです。

9月1日の北京の空は曇りだ。8時47分にバスが出発。その前に、高見さん、前中さん、東川さん、K.Nさんが、それぞれ次の仕事に向かうため別れた。

9時半すぎ、バスは雍和宮に到着した。入場料は25元だが、学生、60歳以上は半額だ。ここは雍正帝が皇帝になる前に住んでいた宮殿だ。次の乾隆帝がラマ教＝チベット仏教の寺院として後に整備し寄進した。各建物には、まず清朝の出身地の満州語、漢語、チベット語、モンゴル語で、雍和門、雍和宮などと書かれた額がかかげられている。

故宮とまではいかないが、大変な人がつめかけていた。中には、模造の仏花をもってきている人もいる。雍

和門で長い線香 36 本入りの箸箱のようなものを渡された。入場料の一部だ。

それぞれの建物の前で、若者も含めた多くの人が数本の線香に火をつけ、頭の上にささげもって、東西南北に拝礼する。さらに石畳の上にひざまづき、恵みをいただくめく手のひらを上に向けて、頭をこすりつけんばかりにして拝む。さすがに五体投地をする人はいなかったが。

あまりに多くの若者、中には入れ墨の男までが、熱心に祈る姿に私はびっくりした。私は信仰をもたないので、神社仏閣を訪れても拝まない。強いていえば、フランス革命の理性崇拝に私は属する。今の中国では、キリスト教や他の仏教もそうなのかわからないが、少なくともラマ教は一定の信仰を集めているようだ。ラマ教の教えについてはわからないが、不安をかかえる若い人が多く拝んでいる姿を見ると、ご利益を求めているのだと思う。

雲崗の石窟の場合は、祈る人が数人しかいなかったように、純粹の観光欲求で人は集まっているが、雍和宮はそれが低く、信仰欲求が強い。だから団体観光客が少ない。旗をもった団体は我われくらいではないかと思ったくらいだ。

11 時雍和宮入口に集合して、表通りでバスを待つ。11 時 20 分に乗り、12 時に北京首都空港に着く。打ち合わせのあと唐さんと別れる。7 日間、大変お世話になった。その後、階上の食堂街へ行き、軽い昼食をとった。連日の昼食が豪華な食事だったので、軽く、質素な？食事と感じてしまった。ビールを置いていない店だったのでよけいにそう思った。それでも S.T さんが昨夜の夕食から持ち帰った 57 度の酒を出して、持ち込み宴会を始めた。私のすわったテーブルでは、水ギョーザ、肉麺など 25～38 元のものを食べた。

1 時すぎから改札に並んで、早々に出発ロビーへと進んだ。ところが事件が起きた。起こしたのは私だ。出発ロビーの真中あたりのイスにすわって、体験記最終日の下書き、そしてノートへの清書をしていた。たくさん時間があると安心しきっていた。

ほぼ書き終えたところに M.K さんが走ってきて、大変です、飛行機がもう出発しますと告げてくれた。出発 20 分前だった。M.K さんはずいぶん探してくれたようだ。M.K さんについて 59 番ゲートに向けて走った。軽やかな M.K さんと差がつく。中国語にたんのうな M.K さんが出発ゲートとやり取りをし、走ってくれた。K.K さんにもご迷惑をおかけした。一人、空港に取り残されるところだった。M.K さんに心から感謝します。

こうした波乱を含みながら、羽田行き JL022 便 16:25 発、関西行き CA161 便 16:30 発で日本への帰途についた。I さんは 17 時の JAL で羽田に向かった。

【K.O 記】

最終日：雍和宮→北京空港

7:00 から朝食。5 階のテラスのようなところを通って少し階段を上ると朝食バイキングのスペースがあった。大同とは違って、北京は外国人観光客が多いからだろう、おはしだけでなくフォークやナイフも置いてあった。飲むヨーグルトもあり、日本の味と同じでとてもおいしかった。しかし、飲むヨーグルトというよりはヨーグルトを飲んでいるような感覚だった。

A.Y さんは、大同より北京の料理の味つけのほうが好きだと言っていました、私は大同の料理の味のほうが好きだと思った。昨夜、S 先生のお部屋で白酒をたくさん飲み、その後も M.K さんと K.N さんと 3 人でビールを買って飲んだりしていたので、お腹がゆるくなっていた。二日酔いはないが、お腹の調子がいまいちだったので朝食は控え目にした。私は、日本で普段からよくお腹をこわしているのだが、今回のこの中国の旅ではほとんどお腹をこわさなかつた。飲みすぎてこわした以外にこわさなかつたのは驚きだ。辛いものを食べても大丈夫だったので、中国の食は私の身体に合っていたようだ。テレスからまた少し階段を上ると、故宮などが一望できた。

チェックアウトをして 8:30 にホテルを出た。雍和宮というところへ向かった。バスに乗る前に、東川さん、前中先生、高見さん、K.N さんとお別れをした。

雍和宮は正直行ってよくわからなかつた。お線香を渡され、いくつもある宮殿？の前でお線香 3 本に火をつけ、頭のおでこあたりにそれを持って、3 回おじぎをする、という行為をみんなしていた。一番最初の場所では、四方向に 3 回ずつおじぎをしている人が多かつた。しかし、人が多いわりに火をつける箇所が少なく、混雑していて大変だった。また、火のついたお線香をおでこあたりにつけておじぎをするので結構あぶないと思った。なかなか理解し難い参拝？の仕方だったが、昨日の故宮とは違って、静かで厳粛な雰囲気を楽しむことができた。ただ、けむたかつたのと、ガイドが欲しいなあと考えた。その後、バスに乗る前に K.S さんとお分かれした。K.S さんは日本語の発音もきれいで、流暢に話せるのですごいなあと常に感心していた。

11:00 まで雍和宮を見学し、バスに乗って北京空港へ向かった。北京空港では通訳の唐さんとお別れをし、関西・関東組でも分かれた。私と A.Y さんは、2 人で昼食を食べにいった。いろんなレストランを見た結果、麵

のお店に決め、麺と飲み物と一品がセットで58元のメニューを頼んだ。好吃。その後、13:30からチェックインをして、15:45まで免税店などを見たり休んだりしていた。T.Yさんがゲートに現れず、ギリギリに搭乗する、というハプニングもあった。今はA.Yさんの隣に座って、機内食も食べ終わってこの日誌を書いている。A.Yさんとは、この旅で出会えて一緒に部屋で共に過ごすことができ本当に良かった。良い出会いだったと思う。ここからは、このツアー全体を振り返って感じたこと、思ったことを書いていこうと思う。

初めての中国、初めての大同。私はツアーの人たちより一足早く、22日から前中先生、高見さんと一緒に中国に来ていた。父はよく中国に行っているが、私は初めてで、どんなところだろう、とワクワクしながら行った。北京は思った通り都会で、人が多く、活気に溢れていた。大同は、私は田舎のイメージを持っていたが、実際は発展してきている綺麗な街並で道路も広く、整備されていて驚いた。また、街中に緑が溢れていて、それもちゃんと管理されていることも驚いた。緑を増やし、大切にしていることが伝わってきた。ここまで街中に緑を増やし、植えているのは、GENが大同で緑化協力をしたことが影響しているのかな、と思った。日本よりも緑化の意識が高いと思う。

もっと植林するのかなと思っていたが、少ししかできなくて残念だった。でも、もう大同では木を植えるところがほとんどない、ということの意味しているのだとも思った。今回は25周年ということで、今までの成果、木の成長、街・村の成長を見るツアーだったのだと思う。植樹はあまりできなくて残念だったが、素晴らしい活動の成果と大同の現状、文化を見ること、知ることができてよかった。また、25周年という節目、大同での植林は最後だという節目に立ちあうことができよかった。

あとと思ったことは、ご飯の量が多すぎたということだ。たくさん、いろんな種類を食べられることはとても幸せなことだが、あまりにも量が多かったので、もう少し減らして、その分参加費を減額していただけるとありがたいと思う。また、屋台の料理を楽しんだりもしてみたかった。

あとは、現地スタッフの人の名簿か、名札をつけてほしかった。

このツアーのメンバーはとても素晴らしい人たちばかりで、そんな人たちと一緒にお酒を飲んでお話できる、というのはとても貴重でありありがたいことだった。この出会いを大切にしていきたいと思う。

また、日に日に白酒が飲めるようになり、おいしいと感じるようになり、最終的には魏さんに「白酒」と呼ばれるほどになってしまったが、酒好きの私にとってはとても幸せだった。昼間からビール……。

とても印象に残る、貴重な体験をさせていただいた旅だった。前中先生、高見さん、東川さん、現地スタッフ、メンバーのみなさま、関わってくださった全ての方々に感謝を申し上げたいと思う。ありがとうございました。これからも大同を見守っていききたいと思う。

【K.B記】

私がこの日誌ノートの最後の記入者のようです。昨日までの日誌を読ませていただきましたが、若い方のそれはとても面白かったです。やはり私のような年寄り（熟年者？）とは感性が違いますね。これからも、20代、30代の方がこのツアーに多数参加されることを願ってやみません。さて、今日の行動記録については別の方が詳しく報告されていると思いますので割愛します。以下に、このツアー全体の私の感想を、思いつくままに書くことにします。

2007年以来、9年振りにツアーに参加しました。今回のツアーは、植樹のような体を使う活動は控え目でしたが、GENの25年間の成果を確かめるという意味では、北京で行われた記念シンポジウムへの参加を含めて、非常に充実したツアーだったと思います。来年から植樹の現場が隣の張家口市に移るそうですが、GENの活動原点である大同市の現場を巡ることは、この先もぜひ続けて欲しいものです。

中国におけるインフラ整備のスピードは、まさに驚きの一語に尽きます。高速道路、高速鉄道、高層ビルや山嶺に並ぶ風力発電用風車の建設等もそうですが、わずか9年の間に大同の街そのものが一変していました。街の周囲には高い城壁が築かれ、その上には多数の望楼がそびえ、まるで古代の平城京が忽然と現れたかのようでした。市長の一声で、これだけ大規模な「観光都市」をわずか数年で建設してしまう中国という国は、ちょっと不気味ではあります。同じことを、霊丘へ移動したツアー初日にも感じました。行けども行けども、見渡す限りの大地にトウモロコシだけが植えられていました。たぶん、中央から何らかの指導があった結果なのでしょうが、他の国では見たことのない風景です。1950年代末の「大躍進政策」の時にも、中国全土で木を切り倒す同じ風景が繰り返されたのかと、思わず想像してしまいました。中央集権国家というものを持つ一面を垣間見た気がしました。

多くの方が指摘していることですが、私もまた、街ゆく人に活気があり、社会全体にも勢いがあると感じました。今、中国は良い時代を迎えていると正直思いました。1980年ごろの「うつむき加減の中国」を知る者としては、うれしい変化です。ただ、すこしばかり上を向きすぎたような気がしないでもありませんが。一方、

中国とは対照的に、今の日本は「うつむき加減」です。社会にも人にも元気がありません。しかし、そんな違いは、20年30年で容易に変わるものだと私は思います。ちょうど、日本と中国の勢いがこの20年でひっくり返ったように。ですから、我々もそう悲観する必要はないと思います。GENの様に、今できることを一步一步、焦らず、諦めず、楽観的に取り組んでゆけばよいのだと思った次第です。25年間ただ愚直に続ければ、あれだけの成果が現れるのですから。しかも、スタートはたった一人だったのですから。

2007年に参加したときは、人数は今回よりも多かったように思いますが、ほとんどが社会人でした。しかし、今回は学習院大学を中心として10名もの大学生や院生が参加してくれました。外部参加者の3分の1が学生さんということになります。そのおかげでしょうか、ツアーがどこか華やいていました。食事のときなどは若者どうしの明るい会話が飛び交い、聞いているだけでも楽しかったです。この背景には、学習院大学が学生の旅費については支援してくれたという特別な事情があったようですが、学生のときに、こうした年配の、しかも一流??の方々と寝食を共にしたことは、きっと彼らにも貴重な経験だったと思います。私もまた、何十年ぶりに現役女子大生の方とお茶をする機会を得て、非常に楽しいツアーとなりました(今回のツアー最大の収穫かもしれません)。

最後に、今回のツアーは、グルメツアーと言ってもよいくらい毎日3食ご馳走が出ました。帰宅した後、恐る恐る体重計に乗ってみたら3キロも太っていました。3キロ太るのには1週間で十分でしたが、これを元に戻すには果たして何年?かかることやら……。しかし、こうなった理由は私の意思が弱くてつつい箸を延ばしてしまったせいでもあります。何よりも、楽しい仲間と毎日寝食を共にしたせいなのです。高見さん、前中先生、東川さん、K.Kさん、そして同行のみなさま、楽しいツアーを本当に有難うございました。

『風わたる 南天門の碑 (いしぶみ) に 飛燕の群れの 青く輝く』

●番外

【K.I記】

25周年記念式典を北京でやるので、との案内に、1995年から21回目の参加を決めた。が、3日目に痛風となりメンバーに迷惑を掛けた。

奥さんが同郷というT.Mさんに、4日間も介護していただいた。親身な介護にお礼の言葉もない。

帰国後、主治医の診断では尿酸値6.6とさほど高くなく痛風ではないとのこと。腫れも1週間で収まった。

年末に腰部を痛めているので、南天門での作業は割愛させて貰い、OPで2回目の平型関戦跡遺蹟を参観した。10数年前に、終戦時一時八路軍の兵士だった故・浦田さんと訪ねた時は、高粱畑のなかを尋ね尋ねして辿り着いたが、今回は専用道路まで付いていて建物も様変わりだった。新中国の内政の姿勢を改めて強く感じ、念頭における付き合いが肝要だと思う。

平型関は中国軍が初めて日本軍に大勝した処として中国では名高いが、インターネットをみると『誇張された平型関大捷』がある。投稿者の言わんとする処も判るが、戦場の凄惨さをほうふつとさせ痛々しい。

二度と銃火を交わらせることが無いことを祈念する。

ホテル 08:30 ~ 09:30 平型関戦跡記念館 10:30 ~ 楼閣・楼門探索 ~ 12:20

農家飯店にて昼食。14:30 ホテル着。

20年前と変わらぬ王萍のガイドと運転手・昼食付900元(1万円=550元)。

T.Mさんのシャツは私が式典に着ていく予定のもの。お礼に差し上げた。



●編集後記

まず、この日誌の完成が大変遅くなってしまったこととお詫びします。また、今回のツアーは、K.Iさんの病気、M.Iさんの負傷があり、ご当人にはもちろん、Mさんや参加者のみなさまにもいろいろとご不便・ご迷惑をおかけしました。あらためてお詫びするとともに、ツアー期間中のみなさまのご協力に感謝いたします。

ツアー終了後、北京や蔚県滞在の折りホテルで注意して見てみると、浴室には必ずピクトグラムとともに「小心滑床（床が滑るから注意）」と掲示してありました。浴室で滑って転ぶ事故が多いからそういう掲示があるわけです。大同でも何度か浴室で滑って転んだという話を聞いていましたが、これまで笑い話で済んでいたのは幸運ただけで、あらためて参加者に注意喚起をすることが必要だと痛感いたしました。以後、ツアーの必須注意事項といたします。

これまでこの日誌は事務所の印刷機で刷って事務所で製本していましたが、もともと中古で買った印刷機がいつ壊れてもおかしくない状態になりました。とてもよく働いてくれたのです。新しい印刷機は高性能でお値段もお高くなり、とても買えません。実は、総会の資料をどうするかが大問題で、ネットの印刷屋に頼むつもりで、チラシなどはすでに制作済みですが、冊子となると勝手が違います。今回の日誌でお試しというわけで、これまでより美しい印刷をお楽しみください。（東川）



この記録は、緑の地球ネットワーク 2016 年 8 月黄土高原スタディツアーに参加したみなさんがツアー中交代でつけた日誌と、一部参加者より事後に寄せられた手記をまとめたものです。一部の漢字・仮名遣いや句読点の使い方、改行の仕方、固有名詞の誤記等改めた部分もありますが、文章表現は原文のままです。ただし、簡体字（中国の略式漢字）は編集の便宜上できるかぎり相当する日本の漢字に改めました。